

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立新田小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 85人

② 算数 83人

③ 理科 85人

5 留意事項

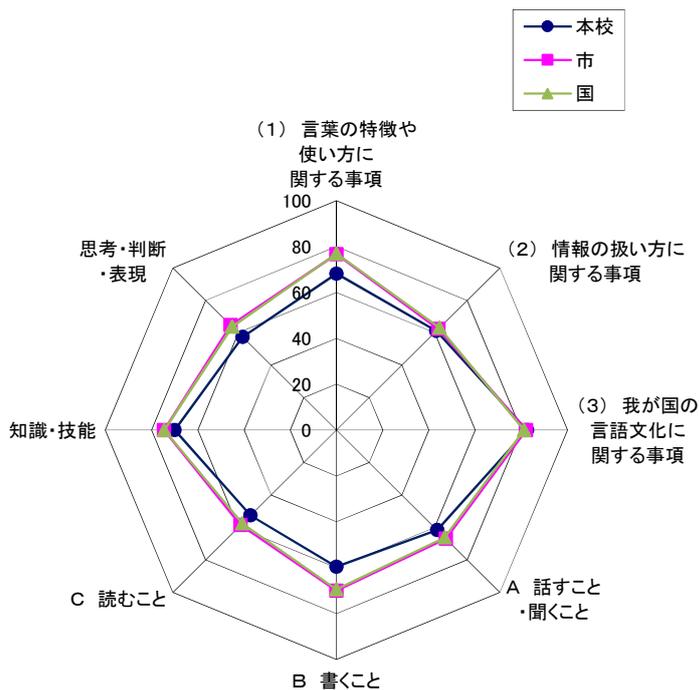
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立新田小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	68.2	76.7	76.9
	(2) 情報の扱いに関する事項	61.2	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.4	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	61.6	67.0	66.3
	B 書くこと	59.6	70.0	69.5
	C 読むこと	52.6	58.6	57.5
観点	知識・技能	70.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	57.4	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

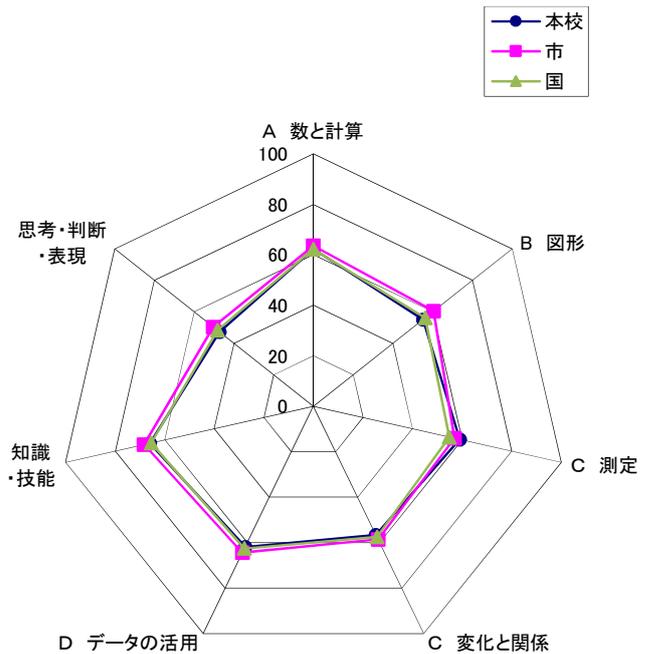
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○無回答率は0%であり、全児童が問題に取り組むことができた。 ●「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題では、2問とも国の平均正答率を下回っており、それぞれ1.6ポイント、15.6ポイントの差があった。	・単語での漢字練習でなく、例文を書き写す練習をして、適切な漢字の定着を図る。 ・1人1台端末での変換機能を活用して、意味に合った漢字の使い方を視覚的に捉えられるようにする。
(2) 情報の扱いに関する事項	○無回答率は0%であり、全児童が問題に取り組むことができた。 ●「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使えるか」の問題では、国の平均正答率をやや下回った。	・説明文において、大切なポイントを短い言葉で抜き出したり、線を引いたりして、内容を整理できるようにする。 ・内容を捉え、伝わりやすい文章にするために、接続詞を意識して文章を読んだり書いたりさせるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる」の問題では、国の平均正答率をやや上回った。	・与えられた言葉を同じ意味の別の言葉に言い換えられるように、語彙を増やす。
A 話すこと・聞くこと	○無回答率は0%であり、全児童が問題に取り組むことができた。 ●「意図に応じて、自分の考えをまとめることができる」「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」問題では、国の平均正答率を、それぞれ4.7ポイント、5.5ポイント下回った。	・自分の考えを表現するときに、最もふさわしい言葉が選べるように、語彙を増やす。
B 書くこと	○無回答率は0%ではないが、他の記述問題に比べ、無回答率は低く、書く意欲は見られた。 ●「目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題では、国や県の平均正答率より10ポイント以上下回った。	・問われている内容を理解し、対応する文章を探して線を引くなど、読み直しができるようにする。 ・朝の学習や宿題などで文章問題を扱い、所見の文章問題に慣れるようにする。 ・自分の考えを書くときにキーワードを入れたり、字数を決めたりするなど、条件を設定する。
C 読むこと	○「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体をとらえることができる」問題では、国の平均正答率よりやや上回った。 ●「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を読み取ることができる」問題では、国の平均正答率を10ポイント以上下回った。	・説明文において、大切なポイントを短い言葉で抜き出したり、線を引いたりして、内容を整理できるようにする。 ・自分の考えを書くときにキーワードを入れたり、字数を決めたりするなど、条件を設定する。

宇都宮市立新田小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	62.3	63.6	62.3
	B 図形	55.1	60.4	56.2
	C 測定	59.0	56.9	54.8
	C 変化と関係	56.6	58.6	57.5
	D データの活用	61.9	64.4	62.6
観点	知識・技能	66.0	68.3	65.5
	思考・判断・表現	47.2	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

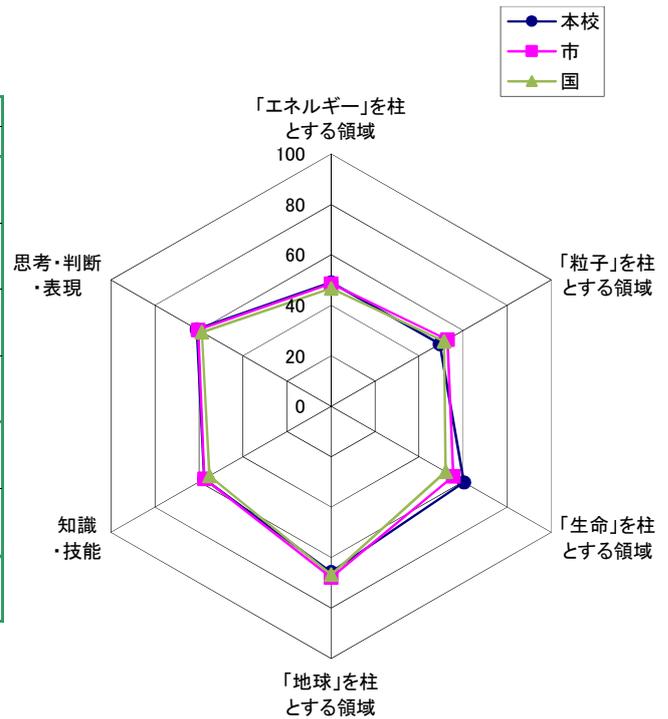
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○「$0.4 + 0.05$について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く」問題では、県の平均正答率を2.4ポイント上回っている。</p> <p>●「$3/4 + 2/3$について、共通する単位分数と、$3/4$と$2/3$が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く」問題では、県の平均正答率を3.1ポイント下回っている。</p>	<p>・異分母の計算を行う際には、機械的な通分指導だけではなく、単位分数を意識した計算方法を意図的に説明するようにする。</p> <p>・教師が説明の型を示してから子供とやり取りをすることで、数学的な説明をすることに慣れさせる。</p>
B 図形	<p>○「五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く」問題では県の平均正答率を6.4ポイント上回っている。</p> <p>●「方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ」問題では、県の平均正答率を9.6ポイント下回っている。</p>	<p>・普段の授業において、図形をある決まった方向から示すだけでなく、様々な角度で提示していく。</p> <p>・それぞれの図形の定義をきちんとおさえてから作図させるようにする。</p>
C 測定 C 変化と関係	<p>○「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では、県の平均正答率を3.1ポイント上回っている。</p>	<p>・答えだけの確認ではなく、途中の計算過程や、計算の工夫の仕方などを言葉で説明する場面の設定を今後も継続して行っていく。</p>
D データの活用	<p>○「簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる」問題では、県の平均正答率を3ポイント上回っている。</p> <p>●「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題では、県の平均正答率を7.3ポイント下回っている。</p>	<p>・教師が説明の型を示してから子供とやり取りをすることで、数学的な説明をすることに慣れさせる。</p> <p>・グラフや表を見るときポイントを具体的に示す。それぞれのグラフの特性をしっかりとおさえるようにする。</p>

宇都宮市立新田小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	49.1	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	49.4	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	60.3	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	65.7	67.9	66.7
観点	知識・技能	57.6	57.5	55.3
	思考・判断・表現	61.0	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○県の平均正答率とほぼ同程度だった。</p> <p>○「電磁石の強さと巻き数について」の問題では、県の平均正答率より10.3ポイント上回った。</p> <p>●「金属の性質について」の問題では、県の平均正答率とほぼ変わらなかったが、正答率が著しく低かった。</p>	<p>・実験などの体験的な学習を適切に行うことで、児童の理解が深まったと考えられ、今後も導入を工夫するなどして指導を続けていく。</p> <p>・物質の性質や特徴について、自分の言葉でまとめられるように指導し、理解を確実にする。</p> <p>・既習事項から系統立てて、用語や実験の結果を思い出す時間を設け、学習に生かせるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○「水が氷に変わる温度をもとにした予想を考える」問題では、県の平均正答率を8.6ポイント上回った。</p> <p>●県の平均正答率をやや下回った。</p> <p>●「水の状態変化について説明する」2つの問題では、いずれも県の平均正答率を5ポイント以上上回った。</p>	<p>・水の三態について日常生活を想起させながら取扱うことで、状態変化の条件や理由を判別できるように指導していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○県の平均正答率を6ポイント上回った。</p> <p>○「植物に関わる」問題では、いずれも県の平均正答率と同程度か5ポイント以上上回っている。特に「種子の発芽」についての設問では、県の平均正答率を9.6ポイント上回った。</p>	<p>・実験の計画段階において、予想や仮説を適切に取り扱うことで、何を求めたいのかを明確にしながら引き続き指導をしていく。</p> <p>・自分の言葉を用いて、結果をまとめたことで基本的な理解が深まったと考えられるため、理科的用語を使って考察をまとめていく活動を適宜位置づけていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○県の平均正答率とほぼ同程度だった。</p> <p>○「土の粒の大きさと水のしみこみ方の関係を問う」問題では、本校の平均正答率が83.5%と高い水準であった。</p>	<p>・実験を行うときに、変える条件と変えない条件を明確にて取り組ませることで、得られた結果が何を示しているかを明らかにできるように指導していく。</p>

宇都宮市立新田小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」の設問について、肯定的な回答をした児童の割合は100%だった。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」と肯定的な回答をした児童の割合は94.2%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の設問で肯定的な回答をした児童の割合は96.4%だった。助け合うことの大切さを理解し、実践しようとしていることが分かる。日常的な指導のほか、「いじめゼロ集会」等の学校行事を高学年児童が中心となって開催することにより、児童自身が「いじめ」について真剣に考え、いじめはいけないという意識を向上させることができた。今後も「いじめはしない・させない・許さない」という合言葉のもと、指導・支援を継続していく。

○「先生は、あなたのようにとてを認めてくれると思いますか。」の設問の肯定的な回答をした児童の割合は97.3%で県の平均をやや上回り、また「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」の肯定的な回答をした児童の割合は89.4%で県の平均を15ポイント上回った。児童が自分らしさを発揮しながら成長できるよう今後も褒めて認める教育の実践を継続していく。

●「学校以外に1日に勉強をする時間」は、平日が「30分以上1時間より少ない」と回答した児童が36.5%、休日は「1時間より少ない」が38.8%と最も多かった。また、「全くしない」が平日で8.2%、休日で28.2%であり、家庭学習の習慣が十分身に付いていないことが分かる。改めて自主学習を実施することの意義を確認し、宿題だけでなく、進んで自主学習に取り組むよう励ましたり、頑張っている児童の取組を積極的に紹介したりして意欲喚起を図っていく必要がある。また、家庭学習における取組を地域学校園で開始したので、情報共有をしながら家庭学習への意識を高めるようにしていく。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用してましたか。」の設問について60%の児童が、ほぼ毎日授業の中での活用をしたと回答している。授業内での活用を増やしたことにより、その後の設問である「ICT機器を使って文章を作成できる。」や「インターネットを使って情報を収集することができる。」において高い肯定回答率となった。また、友達と協力して課題を解決したり考えを共有したりするICTの活用についても、高い肯定回答率となった。今後も、効果的なICT機器の活用を図って指導を進めていく。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」や「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか。」の設問では、「よくできている」の回答が県の値よりも低い結果となった。今後の指導にあたって、単元を見通した学習計画の立案や児童の振り返りの場を増やしながら指導を行うことで、学習を系統的に児童が理解できるようにしていく。

●算数において「授業の内容はよくわかるか」の設問について、肯定的回答割合は県の平均を下回っている。しかし、「算数が、将来、社会に出た時に役に立つと思う」という設問に対する肯定的回答割合は県の平均を上回っており、算数科の授業で学習する内容の大切さが理解できているものと捉えられる。さらに、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できているか」の設問に対する肯定的回答割合が県の平均を下回っていることから、授業で習ったことを生活の場面で想起し、活用する機会が少ないことが考えられる。今後は、習ったことが生活のどのような場面で生かされるのか授業中に触れていくようにしたい。

宇都宮市立新田小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の確実な習得のための指導の工夫 単元を通しての学習の流れの提示 導入や教材との出会いの工夫 目標（「何をするか」）の明確化 活動や学びの振り返り（「何ができたようになったか」）の明確化 	国語、算数において、「授業の内容はよくわかるか」の質問の肯定的回答割合が県の平均を下回っている。理科における同様の質問では県の平均を上回っている。
思考力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 考える視点・書く視点の提示 振り返りの充実・視点の提示 発問の精選 問い返しや補助発問の工夫 授業を通しての書く活動の設定 一人学びの時間の確保と教師の支援 ノート・ワークシートの工夫 キーワード、イメージ図の活用 	「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合が県の平均を上回っている。
学び合いの充実	<ul style="list-style-type: none"> 教師のコーディネート 一人一台端末の活用 話し合いを深めるツールの開発と活用 話し合いの目的・視点の明確化 学習形態の工夫（ペア学習・グループ学習） 	「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していたか」の質問に対して「複数の授業で使用した」と回答した児童の割合が県の平均を大幅に上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の書くことに関して、課題が見られる。また、各教科、学習したことを生活に活用したり、次時に生かしたりすることにおいても課題が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> ふり返りの充実 単元を見通した授業の計画立案 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現する活動を取り入れる授業の実践 ふり返りの活動時に、次時の内容を取り上げ、学びの連続性を意識させる授業の展開